



東京フィルハーモニー交響楽団
Tokyo Philharmonic Orchestra



2021

6



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きとともに広がる＜新しい景色＞を
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten

マルハニ

LOTTE

JP ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第139回東京オペラシティ定期演奏会

6.17 (木) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第954回サントリー定期シリーズ

6.18 (金) 19:00開演 サントリーホール 大ホール

第955回オーチャード定期演奏会

6.20 (日) 15:00開演 **Bunkamura** オーチャードホール

指揮：尾高忠明

ピアノ：上原彩子*

コンサートマスター：近藤 薫

6/17

6/18

6/20

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 Op.43* (約25分)

序奏：アレグロ・ヴィヴァーチェ

第1変奏：アレグロ・ヴィヴァーチェ

主題：リストッソ・テンポ

第2変奏：リストッソ・テンポ

第3変奏：リストッソ・テンポ

第4変奏：ビウ・ヴィーヴォ

第5変奏：テンポ・プレチエデンテ

第6変奏：リストッソ・テンポ

第7変奏：メノ・モッソ、ア・テンポ・モデラート

第8変奏：テンポ・プリモ

第9変奏：リストッソ・テンポ

第10変奏：ポーコ・マルカート

第11変奏：モデラート

第12変奏：テンポ・ディ・メヌエット

第13変奏：アレグロ

第14変奏：リストッソ・テンポ

第15変奏：ビウ・ヴィーヴォ・スケルツァンド

第16変奏：アレグレット

第17変奏：アレグレット

第18変奏：アンダンテ・カンタービレ

第19変奏：ア・テンポ・ヴィヴァーチェ

第20変奏：ウン・ポーコ・ビウ・ヴィーヴォ

第21変奏：ウン・ポーコ・ビウ・ヴィーヴォ

第22変奏：ウン・ポーコ・ビウ・ヴィーヴォ

(アラ・プレヴェ)

第23変奏：リストッソ・テンポ

第24変奏：ア・テンポ・ウン・ポーコ・メノ・モッソ

ラフマニノフ：交響曲第2番 木短調 Op. 27 (約60分)

I. ラルゴー・アレグロ・モデラート II. アレグロ・モルト III. アダージョ IV. アレグロ・ヴィヴァーチェ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）|

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(6/20)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せず
ご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場、再入場・途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお
席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

出演者プロフィール

6/17

6/18

6/20



©上野隆文

指揮

尾高忠明

Tadaaki Otaka, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 桂冠指揮者

1947年生まれ。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、BBC交響楽団、ベルリン放送響など世界各地のオーケストラに客演。

1991年度サントリー音楽賞受賞。1997年には英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。その他1999年には英国エルガー協会より日本人初のエルガー・メダルを授与されたほか、1993年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号、ウェールズ大学より名誉博士号、2012年有馬賞（NHK交響楽団）、2014年北海道文化賞、2018年度関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化祭賞、日本放送協会放送文化賞、2019年第49回JXTG音楽賞洋楽部門本賞等を受賞。

現在NHK交響楽団正指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団桂冠指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管弦楽団桂冠名誉指揮者。また複数の大学で後進の指導を積極的に行っている。

6/17

6/18

6/20



©武藤 章

ピアノ

上原彩子

Ayako Uehara, Piano

第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。これまでに国内外での演奏活動を行ない、ヤノフスキ、ノセダ、ルイジ、ラザレフ、ブラビンス、ペトレンコ、小澤征爾、小林研一郎、飯森範親、各氏等の指揮のもと、国内外のオーケストラのソリストとしての共演も多い。2004年12月にはデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト・ソリストに選ばれた。

CDはEMIクラシックスから3枚がワールドワイドで発売された他、キングレコードより、「上原彩子のくるみ割り人形」「ラフマニノフ13の前奏曲」「上原彩子のモーツァルト&チャイコフスキー」がリリースされている。東京藝術大学音楽学部早期教育リサーチセンター准教授。

オフィシャル・ホームページ：

<https://www.japanarts.co.jp/artist/AyakoUEHARA>

楽曲紹介

解説＝柳富美子

ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲 Op.43

セルゲイ・ラフマニノフ (1873-1943) はロシア革命後の内戦で全財産を失い、借金返済のために1918年に出稼ぎに出たものの帰国の機会を失い、二度と祖国の土を踏むことはなかった。稼ぎ、養うためにはピアニスト稼業に専念せざるを得なかったが、作曲家としても円熟期にあり、数こそ少ないものの傑作が揃っている。この「パガニーニの主題による狂詩曲」も多忙なピアニスト時代の1934年夏の作。スイスの別荘にて音楽業界休暇中の1ヶ月半で一気書き上げた。作曲のきっかけは室内楽でコンビを組んでいたヴァイオリニストのクライスラーが与えてくれた。クライスラー版のパガニーニ原曲を聴きながら、彼は主題の音を上下逆転させる「反行」という独創的な変奏方法を思いついた。ラフマニノフは「この第18変奏が曲全体の救世主になるだろう」とホロヴィッツに語ったという。

「狂詩曲 (ラプソディ)」と銘打たれてはいるものの、実際には主題と24の変奏曲で、形態はピアノ協奏曲。全体が急―緩―急の大きく三つに分かれ、従来の3楽章形式の協奏曲の発展形とも解釈できる。注目すべき特徴は、短い序奏の後に、まず第1変奏から開始してその後に主題が来るという冒頭と、上述した第18変奏に見られるように、パガニーニとは違う変奏を行っていること、そして、途中でグレゴリオ聖歌の「ディエス・イレ (怒りの日)」がはっきりと引用されて二重変奏曲になっている点である。

第7変奏で現れた「ディエス・イレ」が力強く主張する第10変奏曲までが「急」の第1部、第11変奏から甘美な抒情が頂点に達する有名な第18変奏までが「緩」の第2部、第19変奏で唐突に「急」の第3部へ移り、最後の第24変奏のコーダで「ディエス・イレ」の全奏が高らかに謳われたあと、曲はあっけなく終わる。

6/17

6/18

6/20

6/17

6/18

6/20

完成後、ラフマニノフはこの曲に基づくバレエ作品を考案し、詳しい舞台シナリオを記している。それによると、主題はパガニーニ、第7～第10変奏に現れる「ディエス・イレ」は悪魔を表し、第12～18変奏が恋人とパガニーニの愛を謳う中間部になるという。ロシア人学者の中には、甘美な第18変奏の旋律は他のラフマニノフ作品の抒情性と共通点が感じられ、この変奏曲は実はラフマニノフ自身を描いているのではないか、と分析する者もいる。

【作曲年代】1934年 【初演】1934年11月7日 ポルチモア、レオポルド・ストコフスキー指揮フィラデルフィア管弦楽団、作曲者自身のピアノ独奏による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（小太鼓、大太鼓、トライアングル、サスペンデッド・シンバル、シンバル、グロッケンシュピール）、ハープ、弦楽5部、独奏ピアノ

ラフマニノフ

交響曲第2番 木短調 Op.27

近年、ラフマニノフの音楽作品や管弦楽曲が注目を集め、この交響曲第2番はいまや大変な人気曲である。番号付き交響曲は生涯に三つ残した。第1番は作曲家として駆け出しの1895年の作で、1897年の初演失敗が彼を鬱病にまで追い込んだという伝説は有名である。しかしこれは全て伝記作家の作り話で、現在では、初演地ペテルブルグの長老たちがモスクワ派の有望な若手ラフマニノフを叩くことが目的だったという説が有力である。

そんな交響曲第1番初演失敗後、ラフマニノフは作曲家としての活動を控えて私設歌劇場で仕事を始めた。心に病を抱えた人間にオペラ指揮や劇場改革はできまい。1897～98年の1シーズンだけで内外のおよそ30作品を振り、1899年には指揮者・ピアニストとしてロンドンで海外デビュー、満を持して1901年に発表したピアノ協奏曲第2番はモスクワのオーケストラが初演争奪するほどの高評価を得た。1904～06年の2シーズンはモスクワのボリショイ歌劇場常任指揮者を務め、1905年にはオペラを2作書き上げた。一方で、ロシア社会は革命前夜の争乱に満ち、多数のペテルブルグ市民が犠牲となった1905年1月の「血の日曜日事件」の後に、ラフマニノフは反帝政の政治文を新聞に掲載している。

紛争の余波を避けて、1906～09年の3シーズンはドレスデンで過ごした。交響曲第2番はそんな充実と争乱の中で1906年10月～1907年4月に作曲され、ドレスデンから遠く憧れた長閑なロシアの自然と共に、不安定な世情や革命のエネルギーにも通じるような力強さも表現されている。

初演の地としては因縁のペテルブルグを選び、大成功を収めた。しかもペテルブルグの長老たちが審査するグリンカ音楽賞のその年の交響曲部門にも輝き、ラフマニノフの積年の鬱憤は完全に消え去った。

第1楽章：ラルゴ — アレグロ・モデラート、ホ短調。ソナタ形式。遅く長い序奏で始まる。冒頭で弦が奏でる流麗な旋律は、交響曲全体に現れるモットーでもある。ようやく登場するアレグロ・モデラートの第1楽章本体では、第一主題も対照的な性格を持つホ長調の第二主題もこのモットーから派生している。

第2楽章：アレグロ・モルト、イ短調。スケルツォ。一転して、音楽は力強さと動きを増幅させる。弦の刻む軽快なリズムに乗って、ホルンが高らかに勇壮な主部第一主題を鳴らす。中間部はモットーから派生した音型が対位法的に展開される。

第3楽章：アダージョ、イ長調。三部形式。長い前触れを伴う第1楽章とは対照的に、いきなり主題から始まる。ヴァイオリン群の甘美な主題もクラリネット独奏による優美な対位主題も第1楽章序奏のモットーの変形である。

第4楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ、ホ長調。ソナタ形式。静寂を破って鮮やかな色彩感を伴った第一主題が祝祭的な気分を盛り上げる。緩徐の第二主題はまたしてもモットーの変形である。最後は全楽章の断片を散りばめながら高揚感がさらに増して、華麗に全曲を閉じる。

【作曲年代】1906～1907年 【初演】1908年1月26日 ペテルブルグ（現サンクトペテルブルグ）、マリインスキー劇場にて、作曲者自身の指揮による

【楽器編成】フルート3（3番はピッコロ持ち替え）、オーボエ3（3番はイングリッシュ・ホルン持ち替え）、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（小太鼓、大太鼓、シンバル、グロッケンシュピール）、弦楽5部

ひとつやなぎ・ふみこ（音楽学）／ロシア音楽研究の第一人者。国際音楽学会ショスタコーヴィチ研究班アジア代表委員。ロシアオペラ・声楽・ピアノズムに特に造詣が深い。ロシア音楽研究会主宰。ロシアン・ピアノ・スクールin東京総合監修。研究・執筆、声楽指導、音楽通訳・翻訳・字幕を手掛け、邦訳したオペラ等の大曲だけでも50を超える。

The 139th Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu. June 17, 2021, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 954th Suntory Subscription Concert

Fri. June 18, 2021, 19:00 at Suntory Hall

The 955th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. June 20, 2021, 15:00 at **Bunkamura** Orchard Hall

Tadaaki Otaka, conductor

Ayako Uehara, piano*

Kaoru Kondo, concertmaster

Rachmaninoff:

Rhapsody on a Theme of Paganini, Op.43* (ca. 25 min)

Introduction: Allegro vivace

Variation 1: Allegro vivace

Theme: L'istesso tempo

Variation 2: L'istesso tempo

Variation 3: L'istesso tempo

Variation 4: Più vivo

Variation 5: Tempo precedente

Variation 6: L'istesso tempo

Variation 7: Meno mosso,
a tempo moderato

Variation 8: Tempo I

Variation 9: L'istesso tempo

Variation 10: Poco marcato

Variation 11: Moderato

Variation 12: Tempo di minuetto

Variation 13: Allegro

Variation 14: L'istesso tempo

Variation 15: Più vivo scherzando

Variation 16: Allegretto

Variation 17: Allegretto

Variation 18: Andante cantabile

Variation 19: A tempo vivace

Variation 20: Un poco più vivo

Variation 21: Un poco più vivo

Variation 22: Un poco più vivo (Alla breve)

Variation 23: L'istesso tempo

Variation 24: A tempo un poco meno mosso

17
June

18
June

20
June

Rachmaninoff:

Symphony No. 2 in E minor, Op. 27 (ca. 60 min)

I. Largo — Allegro moderato II. Allegro molto III. Adagio IV. Allegro vivace

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (June 20)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter just before or in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

Artists Profile



©Takafumi Ueno

Tadaaki Otaka, conductor

Conductor Laureate of the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in 1947, OTAKA studied at Toho Gakuen School of Music under Hideo SAITO, a professor known for teaching Seiji Ozawa and Hiroshi Wakasugi. He then moved to Vienna to study with Hans Swarowsky and Spannagel.

As Japan's leading conductor, OTAKA conducted all major Japanese Orchestras. He is also a popular figure throughout the world particularly in the UK, where he is invited as Guest Conductor to the London Symphony, London Philharmonic, BBC Symphony etc. He made his Proms debut with the BBC National Orchestra of Wales in 1988. He also received invitations to the Berlin Radio Symphony Orchestra, Bamberg Philharmonic and many others.

In 1993, the Welsh College of Music and Drama conferred an Honorary Fellowship on OTAKA. He also holds an Honorary Doctorate from the University of Wales. In 1997, he was awarded the CBE, in recognition of his outstanding contribution to British musical life. He is also the first Japanese to receive the Elgar Medal in 1999, for his continuous efforts at spreading the works by Elgar outside the UK.



©Akira Muto

17
June18
June20
June

Ayako Uehara, piano

Ayako Uehara became the focus of international attention after winning the first prize in the 12th International Tchaikovsky Competition in Moscow, 2002.

Ayako made her debut with the London Symphony Orchestra in the 2005/06 season with Rafael Frühbeck de Burgos, and returned to work with the orchestra in the next season. She also made her debut with the BBC Philharmonic Orchestra/Nosedá in the UK and on tour in Japan, and returned to the London Symphony Orchestra in February 2008 with Vassily Petrenko.

Other performances with orchestras include engagements with the Vienna Symphony Orchestra with Fabio Luisi, Dresden Philharmonic with Simone Young, Russian National Orchestra with Mikhail Pletnev, Toscanini Philharmonic with Lorin Maazel, the Berlin Radio Orchestra and Marek Janowski on their tour of Japan, and the New Japan Philharmonic with Seiji Ozawa.

Ayako has released three CDs on the international label EMI Classics. On King Records, she has released "The Nutcracker," which includes her own arrangements, "Rachmaninoff 13 Preludes Op. 32," and "Mozart & Tchaikovsky."

Program Notes

By Robert Markow

Rachmaninoff: Rhapsody on a Theme of Paganini, Op.43

Many and varied are the compositions based on the last of Paganini's 24 Caprices for Violin Solo. Schumann, Liszt, Brahms, Lutosławski, Schnittke and even Andrew Lloyd Webber, among many others, have fallen under the spell of the irresistible tune. But best known of all is surely Rachmaninoff's interpretation, his last work for piano and orchestra, written in 1934 when the composer was 61 and living in Lucerne, Switzerland. Wit, charm, romance, rhythmic verve and masterly orchestration combine in what many listeners consider to be one of his finest works. The world premiere was given on November 7, 1934 in Baltimore by the Philadelphia Orchestra with the composer as soloist.

The *Rhapsody on a Theme of Paganini* is not, as the title falsely implies, really a rhapsody at all. The term "rhapsody" suggests a loosely organized structure, but in fact, Rachmaninoff's work follows a very clear, taut design – a set of 24 variations. One might, however, associate the piano soloist with the role of the ancient Greek *rhapsode*, the specially trained singer or reciter of epic poems.

The *Rhapsody* begins with the curiously "misplaced" first variation; only afterwards do we hear the theme in its original, intact form, played by violins with piano accentuations. Variations 2-5 all retain rhythmic tautness and drive. Finally in Variation 6 does a more rhythmically free and sentimental tone creep in. A new theme enters at Variation 7, that old funeral chant for the dead, the *Dies irae*, which Rachmaninoff had incorporated into so many of his previous works. In fact, though, there is a melodic kinship between the chant theme and Paganini's. The *Dies irae* returns in Variation 10, a grotesque march. In between (Variations 8 and 9), a demonic quality is maintained, especially

17
June18
June20
June

in Variation 9 with its *col legno* (string players using the wooden part of their bows) tappings and frenzied rhythmic conflict between orchestra and soloist. Variation 11 is essentially a highly florid cadenza with a true rhapsodic flavor to it. Two variations in D minor follow: one a nostalgic, wistful minuet set to Paganini's fragmented theme; the other a sturdy pronouncement of the theme, still in triple meter, in a more straightforward presentation. Variations 14 and 15 are in F major, with the latter almost entirely for piano alone. Dark, ominous, even ghostly stirrings seem to emanate from Variation 16. The next one does nothing to lighten the oppressive mood.

Suddenly, as if emerging into the light of day, we hear the sounds of an old friend softly intoned, that famous eighteenth variation. This lush, glorious music is no intrusion, for, like the *Dies irae*, it too bears a melodic relationship to the Paganini theme; in fact, it is almost an inverted image of it. The music, from now on in the original key of A minor, proceeds swiftly to its conclusion, each variation more scintillating than the last. The gathering momentum and dazzling passage work for the soloist lead one to expect a conclusion of overwhelming bravura and force. Indeed, this expectation is almost fulfilled, but at the last moment, Rachmaninoff pulls back and, with a wicked chuckle, ends his *Rhapsody* quietly with a last, lost fragment of the memorable theme.

SERGEI RACHMANINOFF: Born in Oneg, district of Novgorod, April 1, 1873; died in Beverly Hills, California, March 28, 1943

Work composed: 1934 **World premiere:** November 7, 1934, in Baltimore by the Philadelphia Orchestra conducted by Leopold Stokowski with the composer as soloist

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, triangle, suspended cymbal, cymbals, glockenspiel), harp, strings, solo piano

Rachmaninoff: Symphony No. 2 in E minor, Op. 27

Few symphonies written in the twentieth century achieved the fame and popularity of Rachmaninoff's Second. He wrote it in Dresden, where he had gone in the fall of 1906 to escape the demands of public life in Moscow. The hour-long work was fully sketched by New Year's Day of 1907. Revisions and orchestration took place over a longer period, both back home in Russia and during a return visit to Dresden. Rachmaninoff agreed to conduct the first performance, which took place on January 26, 1908 in St. Petersburg. He also led the Moscow premiere a week later, and an early American performance with the Philadelphia Orchestra in November, 1909. In each case, the audience responded enthusiastically, and the symphony has enjoyed an unbroken run of popularity to this day. The score is dedicated to the composer Sergei Taneyev. Rachmaninoff himself authorized certain cuts in performance, and the expansive nature of the work has led many conductors to do their own editing, resulting in performances that may last anywhere from 38 minutes to over an hour. In May 2014 the manuscript was auctioned by Sotheby's for £1,202,500.

Most of the melodic material of the symphony derives from a single motif, heard in the opening bars in the somber colors of low cellos and basses. In a multifarious variety of guises and transformations, this "motto" haunts the entire symphony in both obvious and subtle ways, thus infusing it with coherence and compelling impetus. After its initial statement, the motto passes to other instruments, eventually giving birth to a sinuous violin phrase, which grows to an impressive climax as it weaves its way through lushly orchestrated textures and luxuriant counterpoint. The main *Allegro moderato* section of the movement is ushered in with a shivering, rising figure in the strings. Violins then spin out a long, winding, aspiring theme based on the motto. The delicate, gentle second theme, divided between woodwinds and responding strings, also derives from the motto.

The second movement, a scherzo, is built on the motif of the *Dies irae*, the medieval Gregorian chant for the dead. Four horns in unison proclaim a boldly exuberant version of the *Dies irae*, which itself has its seeds in the symphony's motto. Two contrasting ideas of note are the warmly flowing lyrical theme for the violins and a brilliant *fugato* section that demands the utmost in virtuosity from the strings.

The *Adagio* movement is one of the lyric highlights of all Rachmaninoff. No fewer than three gorgeous melodies are heard, beginning with one of the most popular ever written. Following immediately on this theme of great repose and tranquility comes one of the glories of the solo clarinet repertory – an extended theme full of ardent longing that might well be called an aria for clarinet. Twenty-three continuous measures of exquisite beauty wind on and on, providing another example of Rachmaninoff's ability to expand a short idea into one of heavenly length. American pianist Arthur Loesser wrote in 1939 that this music “gives off a vapor of drugged sweetness, of fatalistic melancholy.” The entire movement is a dense web of richly polyphonic writing. Midway through there is a brief but obvious reference to the first movement's slow introduction.

The enormously energetic finale too is a broadly expansive movement, beginning with a boisterously robust idea that might easily conjure up the spirit of a *kermesse* (Russian carnival). A dark, grim, march-like episode in the seldom-used key of G-sharp minor brings momentary relief from the predominant spirit of exuberance. Another of Rachmaninoff's most famous themes occurs in this movement, a magnificent, soaring affair that sweeps onward over an expanse of more than one hundred measures. Quiet reminiscences of the first and third movements lead to the development section. One of the symphony's most thrilling passages occurs in this section, where the tintinnabulating effect of St. Petersburg's great bells is recreated in orchestral terms – a slow accretion of descending scales at different speeds, registers and rhythms that culminates in a dense and spectacular swirl of

17
June18
June20
June

notes. The recapitulation follows, and Rachmaninoff's longest, grandest, most expansive symphonic work ends in a veritable blaze of sound.

Work composed: 1906-1907 **World premiere:** January 26, 1908, at the Mariinsky Theatre in St. Petersburg conducted by the composer

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 3 oboes (3rd doubling on English horn), 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, cymbals, glockenspiel), strings

17
June

18
June

20
June

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2021 Season Subscription Concerts Lineup

Join us for the ultimate concert experience of our concert series below. For details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en>

July

Thu. Jul 1, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall
Fri. Jul 2, 19:00 at Suntory Hall
Sun. Jul 4, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Myung-Whun Chung

Single tickets available

— All Brahms' Symphonies —

Brahms:

Symphony No. 1 in C minor, Op. 68
Symphony No. 2 in D major, Op. 73



September

Thu. Sep 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall
Fri. Sep 17, 19:00 at Suntory Hall
Sun. Sep 19, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Myung-Whun Chung

Single tickets available

— All Brahms' Symphonies —

Brahms:

Symphony No. 3 in F major, Op. 90
Symphony No. 4 in E minor, Op. 98



November

Mon. Nov 1, 19:00 at Suntory Hall
Wed/Holiday Nov 3, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall
Thu. Nov 4, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

conductor: Andrea Battistoni
flute: Tommaso Benciolini

Single tickets available

— Japan Premier of Battistoni's Flute Concerto —

Battistoni:

Flute Concerto "*The Garden of Delights*"
(Japan Premiere)

Tchaikovsky :

Symphony No. 5 in E minor, Op. 64



Inquiries about tickets: Tokyo Phil Ticket Service

tel: 03-5353-9522 (weekdays 10:00 - 18:00, closed on weekends and holidays)

Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation



Reduced Visitor
Capacity

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Please cooperate with staggered entry and exit.

東京フィルだより — 2021年シーズン今後の定期演奏会

7月の定期演奏会

7月1日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

7月2日(金) 19:00 サントリーホール

7月4日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

— ブ람ス 交響曲の全て —

ブ람ス/交響曲第1番

ブ람ス/交響曲第2番



チョン・ミョンフン ©上野隆文

9月の定期演奏会

9月16日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

9月17日(金) 19:00 サントリーホール

9月19日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

— ブ람ス 交響曲の全て —

ブ람ス/交響曲第3番

ブ람ス/交響曲第4番

11月の定期演奏会

11月1日(月) 19:00 サントリーホール

11月3日(水・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

11月4日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮: アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

フルート: トンマーゾ・ベンチョリーニ*

— バッティストーニの作品 —

バッティストーニ/フルート協奏曲『快樂の園』

～ボスの絵画作品によせて* (2019)(日本初演)

チャイコフスキー/交響曲第5番



アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文

トンマーゾ・ベンチョリーニ

【料金】SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※残席状況は東京フィルチケットサービスまでお問合せください。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522(平日10時～18時/土日祝休)

<https://www.tpo.or.jp/>(24時間受付・座席選択可)

次回7月・9月定期の聴きどころ



名誉音楽監督 マエストロ チョン・ミョンフンが語る ブラームス 交響曲の全て

取材・文：柴田克彦

2001年以来、東京フィルハーモニー交響楽団にポストを持つ現・名誉音楽監督のチョン・ミョンフン。同楽団と親密な関係を築くマエストロに、ポスト就任20年の思いや2021年の定期演奏会について話を聞いた。

*本インタビューは2020年12月に実施した取材によるものです。

——この20年の間に東京フィルとの関係はどう変化してきましたか？

「東京フィルとは20年間、常にポジティブな関係を続けてきました。これはある意味奇跡的なことです。人との関係において最良の到達点は“信頼”だと思います。お互いが相手の事を考え、疑いがどんどん無くなっていく。ただ、そこに至るまでには時間と段階を要します。まずはプロフェッショナルなレベル、そしてそれがうまく行った次に良いプロフェッショナルなレベル、最後にパーソナルな関係です。私は今、東京フィルのメンバー一人ひとりに対してこころから幸福を願い、愛情を感じています」。

——現在の東京フィルのキャラクターをどう捉えていますか？

「難しい質問なので、個人的な答えを言うと『東京フィルは自分のことを理解してくれる』。大したことではないように聞こえるかもしれませんが、これはプロの世界では滅多にありません。

指揮者はまずテンポなどの基本的なことを腕の動きで分かってもらう必要があります。そして、できれば腕を見て自分の心を分かかってほしいと思っています。しかしそれはとても難しく時間がかかります。そうした意味で、東京フィルへの最高の賛辞として『自分のことをよく分かってくれてありがとう』と感謝したいと思います」。

——2021年は東京フィルにとってどんなシーズンにすべきとお考えですか？

「私の音楽上の目標が一つだけあります。それは『昨日よりも少しより良く演奏すること』です」。

——7月と9月の定期はブラームスの交響曲全曲演奏ですね。2009年にも東京フィルで全曲演奏をされていますが、今このチクルスを行う理由は？ また前回と今回ではどんな違いが生まれるとお考えですか？

「私は以前よりもさらに勉強しています。先ほども言った『少しでも昨日より良く演奏すること』は、段々楽になるのではなく、逆に難しくなっていくので、もっと勉強しなければならなくなるのです。本当の試金石は『より良く演奏したい』という意思を持てるかどうか。そして作品があまりに偉大なので、作品への愛がより良く演奏するよう、より深く勉強するよう要求します。



2009年のブラームス交響曲チクルスより

©三好英輔

ただこうした例もあります。私は昔、ブラームスの4番を非常に難しいと感じていました。しかしある日、なぜか楽になったように感じたのです。その時私は、ブラームスが4番を書いた歳、53歳になっていました。そこで気づいたのはすべての人間が色々な共通項を持っているということ。もちろん天才には特別な部分がたくさんありますが、共通項もあります。53年間生きてきたら他の53年間生きてきた人と共通項があり、23年生きてきた人にはできないことができる。以来第4番との関係が深まりました」。

—— マエストロが思うブラームスの交響曲の特徴や魅力、さらには全曲を聴く意味をお聞かせください。

「ブラームスは交響曲第1番の作曲に長い時間をかけたので、発表した時にはすでに十分経験を積んだ作曲家になっていました。従って4曲に大きな音楽的違いはないのですが、それでも違いがある。



私は時々、この曲は何の動物に当たるだろう? と考えます。1番は力を持ったライオン、しかし4番は何か? 先見の明で知られるシューマンがブラームスについて言ったのは『世界は鷲を見つけた』でした。交響曲第4番の第4楽章に至った時、ブラームスは遂に空へ飛翔する力を身につけます。もはやライオンではなく鷲なのです。1番は物理的に力強いが、4番では心が飛翔する。1番から4番に向かって素晴らしい弧が描かれていると思います。ですので、1番から4番まで聴いて、物理的な状態から心が高揚するレベルに跳躍する過程を辿るのはとても興味深いと思います」。

—— マエストロにとってブラームスはどんな存在ですか?

「学生の頃は、白く長い髭を生やした有名なブラームスの肖像を見ていたので、ゆっくりした重たい音楽を書くお爺さんだと思っていました。しかし今ではまったく違うイメージを抱いています。彼には動物的な野蛮人の面、知性や芸術以前に内側で燃えている生の力があるのです。私にとってブラームスの音楽は、突き破って飛び立つのを待っているような燃える情熱です。多くの物事の熾烈さは一殊に音楽においては一ある種の苦闘から生まれると思っています。例えば種子の中から外に出ようとしているエネルギーは膨大なものです。その種子が天才の中にあるものだったら、どんなエネルギーが解き放たれるのか想像に難くありません。これ

がブラームスについていつも感じることであり、内面の熾烈さにおいて彼を凌ぐと感じられる作曲家はベートーヴェンだけです」。

——最後に日本のお客様へのメッセージを。

「東京フィルは東京の私の家族ですが、20年経った今、お客様ももはや無名の観客ではありません。私にとっては友だちに向けて演奏している感覚です。ですから日本の友人の皆様にまたお目にかかるのを楽しみにしています。

私たちを支えてくれるすべての人に感謝を伝えるために自分は音楽をやっている。私が友だちのために演奏する時、感謝を表そうとしている。本当にそうだ。それが私の唯一のメッセージです。ありがとう、どうぞお元気で、2021年が皆様にとって本当に素晴らしい年になりますように」。

マエストロの東京フィルへの深い愛情と含蓄のある話に触れると、コンサートがますます楽しみになってくる。東京フィルとの20年のコラボの成果が詰まった、ブラームスの交響曲全曲の公演にぜひとも足を運びたい。

ぶらあぼ ONLINE ANNEX

東京フィルハーモニー交響楽団 2021シーズンより抜粋・転載

<https://ebravo.jp/tpo/archives/4208>



7月・9月定期演奏会 公演情報

7月1日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

7月2日(金) 19:00 サントリーホール

7月4日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

9月16日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

9月17日(金) 19:00 サントリーホール

9月19日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

— ブラームス 交響曲の全て —

【7月】ブラームス／交響曲第1番、交響曲第2番

【9月】ブラームス／交響曲第3番、交響曲第4番

チケット料金、問合せ先等詳細は19ページをご覧ください。



©上野隆文

2021シーズン 午後のコンサート。 今後のラインナップ

今季もご好評いただいております、2021シーズンの東京フィル「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」1回券は10月公演まで発売中です（残席状況はそれぞれ東京フィルチケットサービスやウェブサイトなどでご確認ください）。

2021シーズンも、名曲と楽しいお話で充実の午後のひとときをお届けします。

※最優先＝賛助会員・定期会員様
優先＝東京フィルフレンズ会員様

1回券発売日

7～10月公演 発売中

11月～2022年2月公演

最優先 8/21(土)
優先・WEB優先 8/28(土)
(WEB優先は9/6(月)23時59分まで)
一般 9/7(火)

チケット料金(各シリーズ共通)(税込)

1回券	S席	A席	B席	C席
定価	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
東京フィルフレンズ	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890



イラスト：ハラダチエ

“大人の渋谷” Bunkamuraで楽しむ 渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール

9月7日(火) 第11回

指揮とお話：小林研一郎

1回券
発売中



コパケンのチャイコフスキークライマックス!!

チャイコフスキー／
歌劇『エフゲニー・オネーギン』よりポロネーズ
弦楽セレナードより第1楽章
交響曲第6番『悲愴』より第3楽章
交響曲第5番より第2楽章
交響曲第4番より第4楽章

ほか

11月2日(火) 第12回

指揮とお話：
アンドレア・バッティストーニ



バッティストーニの運命

1回券8月発売

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲
ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲
ブッチーニ／歌劇『マノン・レスコー』間奏曲
ボンキエッリ／歌劇『ラ・ジョコンダ』より「時の踊り」
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』

photo: 小林研一郎©山本倫子 アンドレア・バッティストーニ©Takafumi Uen

ゆったりと、平日午後に“音楽のご褒美” 平日の午後のコンサート 東京オペラシティ コンサートホール

7月27日(火) 第22回

指揮とお話:尾高忠明

1回券
発売中



テンポはマーチ

古関裕而／スポーツショー行進曲
J.F. ワグナー／行進曲「双頭の鷲の旗の下に」
スーザ／行進曲「星条旗よ永遠なれ」
レスピーギ／交響詩『ローマの松』より
「アッピア街道の松」

ほか

10月21日(木) 第23回

指揮とお話:円光寺雅彦
ピアノ:清塚信也*

1回券
発売中



忘れ難きふるさと

グリーグ／
劇付随音楽『ペール・ギュント』より
「朝～山の魔王の宮殿にて」
ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲*
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

2022年2月3日(木) 第24回

指揮とお話:三ツ橋敬子
ピアノ:仲道郁代*



photo: 尾高忠明©Martin Richardson 円光寺雅彦©K.Miura 三ツ橋敬子©大杉隼平 仲道郁代©Kiyotaka Saito(SCOPE)

夢を語りますか

1回券8月発売

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番
ショパン／アンダンテ・スピナートと
華麗なる大ポロネーズ*
ハチャトゥリアン／劇音楽『仮面舞踏会』よりワルツ
チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』

元祖! 22年目を迎える“ご長寿”シリーズ 休日の午後のコンサート 東京オペラシティ コンサートホール

9月5日(日) 第89回

指揮とお話:小林研一郎

1回券
発売中



コバケンのチャイコフスキークライマックス!!

チャイコフスキー／弦楽セレナードより第1楽章
バレエ組曲『くるみ割り人形』より
「行進曲～トレバック～花のワルツ」
交響曲第6番『悲愴』より第3楽章
交響曲第5番より第2楽章
交響曲第4番より第4楽章

ほか

11月7日(日) 第90回

指揮とお話:
アンドレア・バッティストーニ



バッティストーニの運命

1回券8月発売

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲
ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲
ブッチェーニ／歌劇『マノン・レスコー』間奏曲
ボンキエッリ／歌劇『ラ・ジョコンダ』より「時の踊り」
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』

2022年2月6日(日) 第91回

指揮とお話:三ツ橋敬子
ピアノ:仲道郁代*



photo: 小林研一郎©山本倫子 アンドレア・バッティストーニ©Takafumi Ueno 三ツ橋敬子©大杉隼平 仲道郁代©Kiyotaka Saito(SCOPE)

テーマは愛

1回券8月発売

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番
ショパン／アンダンテ・スピナートと
華麗なる大ポロネーズ*
ハチャトゥリアン／劇音楽『仮面舞踏会』よりワルツ
チャイコフスキー／バレエ組曲『白鳥の湖』より

お申し込み・お問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (10時～18時・土日祝休・発売日の土曜日のみ10時～16時)

URL www.tpo.or.jp/

Photo Reports 2021年4月・5月の演奏会より

3か月ぶりの自主公演は4月「渋谷の午後のコンサート」そして5月定期演奏会。4月の「渋谷の午後のコンサート」には、マエストロ川瀬賢太郎と、ヴァイオリニスト千住真理子さんが登場。楽しいお話としなやかな演奏で会場を沸かせました。5月は東京フィル首席指揮者アンドレア・バッティストーニが今年2度目の来日を果たし、事業提携を結ぶ長野県軽井沢町でのコンサートと、定期演奏会3公演に登場。生誕100年を迎えた作曲家アストル・ピアソラの貴重なオーケストラ作品の日本初演をお届けしました。 写真=東京フィル/K.Musha/上野隆文

第9回 渋谷の午後のコンサート 〈二人は聖火ランナー〉(4/21)

指揮とお話：川瀬賢太郎
ヴァイオリン：千住真理子*
コンサートマスター：近藤 薫



ビゼー／歌劇『カルメン』前奏曲
ヴィヴァルディ／『四季』より「春」第1楽章*
チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲より第1楽章*
【ソリスト・アンコール】千住明／NHK連続テレビ
小説「ほんまもん」メイン・テーマ「君を信じて」
フチーク／剣士の入場
ベートーヴェン／交響曲第7番より第1楽章、第4
楽章
【オーケストラ・アンコール】モーツァルト／歌劇
『フィガロの結婚』序曲

マエストロ川瀬は楽しいお話と、しなやかな指揮でオーケストラを鳴らし、喝采を浴びました

軽井沢大賀ホール2021 春の音楽祭(5/4)

指揮：アンドレア・バッティストーニ
チェロ：佐藤晴真*
コンサートマスター：近藤薫



ソリストは国際的に活躍する俊英・佐藤晴真。初共演のマエストロとの瑞々しい演奏が強い印象を残しました

ドヴォルザーク／スラヴ舞曲集第1集より第1番、
チェロ協奏曲*（【ソリスト・アンコール】カザルス／鳥
の歌）、交響曲第8番



3か月ぶりに来日し、14日間の待機期間を経て舞台に登場したマエストロ・バッティストーニ。「14日間の待機は、東京フィルの音楽家たちと一緒に仕事ができるという名誉を考えれば、小さな代償にすぎません」と語りました
写真©K. Musha/提供=軽井沢大賀ホール

5月6日(木) 第21回 平日の午後のコンサート〈バッティが語る〉 公演中止

指揮とお話：アンドレア・バッティストーニ ※緊急事態宣言により中止となりました。

5月定期演奏会 (5/12、5/13、5/16)

指揮：アンドレア・バッティストーニ

バンドネオン：小松亮太、北村 聡

コンサートマスター：依田真宣

ー 見果てぬ夢を ー

ピアノ／シンフォニア・ブエノスアイレス (日本初演)

【ソリスト・アンコール】

カルロス・ガルデル (編曲：アストル・ピアソラ)／

想いの届く日

プロコフィエフ／

バレエ音楽『ロメオとジュリエット』組曲より



1月の来日から4か月を経て、東京フィル定期に“連続”登場となったマエストロ・バッティストーニ。次回の登場、11月定期では自作フルート協奏曲『快樂の園』日本初演も控えます



東京フィルにとっても、2月・3月の中止を経て4か月ぶりの定期演奏会。3会場3公演で、熱のこもった演奏を繰り広げました



ピアノ「シンフォニア・ブエノスアイレス」には日本を代表するバンドネオン奏者、小松亮太・北村聡の各氏が参加。同作の日本初演を共に創り上げました



最終公演は本拠地Bunkamuraオーチャードホールにて。多くのお客様に感染対策などのご協力をいただき、開催することができました

次回のバッティストーニ定期登場は11月！ どうぞお楽しみに！

黒柳徹子のハートフルコンサート2021 チケット発売中!

女優・ユニセフ親善大使の黒柳徹子がおくる東京フィルの長寿シリーズ「ハートフルコンサート」開催決定、チケット発売中!



©Martin Richardson

日時 2021年8月15日(日)14:00開演

会場 東京芸術劇場コンサートホール

出演 黒柳徹子(お話)、由紀さおり(ゲスト)、尾高忠明(指揮)

曲目 ドヴォルザーク(南安雄編)／わが母の教えたまいし歌
いずみたく／夜明けのスキヤット
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』 ほか

料金 S席¥6,200 A席¥5,100 B席¥4,100 C席¥3,600 車椅子席¥3,100

問合せ 東京フィルチケットサービス 03-5353-9522(平日10時～18時・土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/>

文京シビックホール「響きの森クラシック・シリーズ」について

東京フィルが事業提携を結んでいる東京都文京区「文京シビックホール」は、ホール改修工事のため2021年4月から2022年秋頃(予定)まで休館となります。その間、人気シリーズ「響きの森クラシック・シリーズ」は以下の形で演奏をお届けいたします。

◎リモートコンサート・シリーズ

文京シビックホールのYoutube公式アカウントで、期間限定で「リモートコンサート・シリーズ」を無料配信しています。

https://www.b-academy.jp/hall/play_list/059800.html

◎ 響きの森クラシック in 東京オペラシティ

東京オペラシティ リサیتالホールで東京フィルメンバーによる室内楽をお届けします。第1回はコンサートマスター依田真宣のソロを含む弦楽合奏をお楽しみください。

日時 10月8日(金)19:00開演(18:15開場)

出演 依田真宣(東京フィルコンサートマスター)、東京フィルメンバーによる室内楽

曲目 ヴィヴァルディ／ヴァイオリン協奏曲集『四季』より
ピアソラ／ブエノスアイレスの四季 ほか

料金 全席指定¥1,500(他公演とセットでの割引あり)

発売日 7月17日(土)10:00～(6/25～文京区民先行発売等あり)

※セット料金、先行発売日等の詳細は主催者ウェブサイトなどでご確認ください
<https://www.b-academy.jp/hall>

問合せ・主催 (公財)文京アカデミー ホール事業係 03-5803-1103(平日9:00～17:00)

演奏会場の感染対策について

演奏会の再開にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



ホール入退場時の密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いいたします

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者をご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation



Reduced Visitor
Capacity

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っています。

客席内は十分な換気を行っています。

時差入退場にご協力ください。

「私とJ. S. バッハのオルガン曲」

株式会社グリーンハウス 代表取締役社長
田沼千秋



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第3回は、東京フィルの賛助会企業であり、「食と健康、ホスピタリティ」を掲げて創業74年を数える株式会社グリーンハウス 代表取締役社長の田沼千秋様。これまでも東京フィルのコンサートだけでなく、楽曲や出演者にちなんだメニューをお届けする「ハーモニーランチ」や「プチ・クラシック講座」など、食と音楽をつなぐさまざまなイベントでご一緒させていただいています。東京フィルの理事もつとめる田沼様が、クラシック音楽に寄せる情熱を綴ってくださいました。

私とクラシック音楽との出会いは1970年代、慶應高校2年生の頃に遡ります。校舎の正面玄関から2階に上ったところに視聴覚教室があり、10数名の学生が、ヘッドフォンをしてレコードから流れる、クラシック音楽を聞いていました。思わず、私もヘッドフォンを借り、レコードから流れていたJ. S. バッハの音楽を聴いたことが、私のクラシック音楽との出会いとなります。それはカール・リヒターが弾くJ. S. バッハのオルガン曲4曲が入っているレコードで、リヒター氏は当時ミュンヘン・バッハ管弦楽団の指揮者として、また、バッハ同様に、当時のライプチヒにある聖トマス教会のオルガニストとしても著名な方でした。

「トッカータとフーガ ニ短調 BWV565」等4曲が入ったこのレコードは、3回も買い替え、その感激が忘れられず、大学入学後、クラシック音楽愛好家のクラブにも入りました。バッハの全オルガン曲246曲が入った、パイプオルガン全集を買ったことを覚えています。



聖トマス教会の前のバッハ像

趣味は嵩じて、1981年にヤマハ株式会社さんが製造されたクラシックパイプオルガン仕様のエレクトーン F-70を買ったり、2000年にはバッハの生誕の地のアイゼナハから、最後に活躍したライプチヒまで、65年の生涯を過ごした旧東ドイツ圏内の由緒ある都市や史跡を回る1週間の旅にも出かけました。

1997年から始まり、2019年が第10回となる、株式会社グリーンハウス主催の東京オペラシティ コンサートホールでのクラシックコンサートでは、幾度もJ. S. バッハの曲を東京フィルさんに演奏して頂き、また仕事の面でもホテル事業で、『ホテルグランバッハ』と名付けたブランドを立ち上げ、クラシック音楽と健康的な地元の食材を使った食事を楽しんでいただくホテルを京都と熱海で営業しています。今年2021年7月には仙台、11月には銀座にも新たに開業する予定です。

「食と健康を通して人に喜ばれる」事業を展開する弊社ですが、食と音楽を通じた心からのおもてなしを、東京フィルさんと力を合わせて、今後も進めて参りたいと心から願っております。

田沼千秋 (たぬま・ちあき)

1975年慶應義塾大学経済学部卒業、野村證券株式会社入社。1977年株式会社グリーンハウス入社。1980年コーネル大学大学院ホテル経営学科卒業。1981年株式会社グリーンハウスフーズ代表取締役社長(現任)。1993年株式会社グリーンハウス代表取締役社長(現任)。2019年コーネル大学プレジデンシャルカウンシラー(現任)。
平成23年より公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団理事。

株式会社グリーンハウス様は1947年創業。『人に喜ばれてこそ会社は発展する』の社是の精神を原点とし、現在は国内外に2600店の運営先をもつ総合ホスピタリティ企業です。日本と北米で600万人規模のユーザーが利用する最先端の食事管理・ダイエットアプリ、「あすけん」の開発など、食と健康に関わるビジネスのフロントランナーとして評価されています。<https://www.greenhouse.co.jp/>



7月にオープン予定の「ホテルグランバッハ仙台」のパイプオルガン



ホテルグランバッハ東京銀座
(2021年11月オープン予定)

雨に萌ゆる緑が風情を漂わせる季節、

皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

今月は、マエストロと楽団員が奏でる、色調豊かな緑があふれる

この季節にふさわしい、生命力みなぎる演奏をお楽しみください。

引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史



賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。

ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、

改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IHI	代表取締役社長 井手 博	ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 安齋 尚志
相澤内科医院	理事長 相澤 研一	桜美林大学	総長 大越 孝
アイ・システム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	(株)オーディオテクニカ	代表取締役社長 松下 和雄
(株)インターテクト	代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団	代表理事 宮内 義彦

花王(株)	代表取締役 社長執行役員	長谷部 佳宏	トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
カシオ計算機(株)	代表取締役社長	樫尾 和宏	トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
キャノン(株)	代表取締役会長兼社長 CEO	御手洗 富士夫	DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株)グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋	(株)ニチケアパレス	代表取締役社長	秋山 幸男
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩	(株)ニフコ	代表取締役社長	柴尾 雅春
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史	日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之	(株)パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛	富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准	(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株)滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳	(株)三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己	三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎	三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉	(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
ソニーグループ(株)	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎	ミライババイオサイエンス(株)	代表取締役	田中 めぐみ
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男	(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
(株)ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長CEO	村松 俊亮	森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎	ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
都築学園グループ	総長	都築 仁子	(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫	ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之	楽天グループ(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣	(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス	代表取締役社長	畠森 達朗	(株)トレミール	代表取締役	茶谷 幸司
欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄	(株)日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美	富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹	本田技研工業(株)	代表取締役社長	三部 敏宏
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎	三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
(宗)東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽	三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹			

ご支援の御礼とお願い

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年2月下旬より数か月にわたり東京フィルが出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。そのような中、たくさんの励ましのお言葉とともに、チケット払戻し辞退や、コロナ禍における活動に対してのご寄附等、温かいご支援をいただいておりますこと、重ねて心より御礼申し上げます。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を継続してまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。1万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（23ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行 (郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらからも取得いただけます。
https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
 〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
 Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
 Tel 03-5353-9521 (土日祝日を除く10時～18時)

東京フィル 賛助会 会員募集中

2021年3月に東京フィルハーモニー交響楽団は創立110年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは一年の始まりである1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の新しい暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化するグローバル社会において心の豊かさを育み、文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリウド	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部（担当：星野^{かのまた}・鹿文）

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業」／ 「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、



小学校体育館でのオーケストラ本公演

東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは次ページをご参照ください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様と
チョンミョンブン(2019年7月東京オペラ
シティ定期) ©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。ご招待をご希望の方は、あらかじめ東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)にご連絡いただき、公演当日、開演の60分前以降に公演会場の招待受付にお越しください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」として活用させていただいてまいりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、運用を見合わせておりましたが、2021年1月定期よりご案内を再開いたしました。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時／土日祝休)

5月定期演奏会のチケットのご寄附をいただきました。
心より御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

匿名希望6名

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏の他、2020年にはドキュメンタリー番組『情熱大陸』や『NHK紅白歌合戦』にも出演。また、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和土
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

柄本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hirosaki Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	小田 愛美 Manami Oda	
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba	平田 慎 Shin Hirata	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	山内 正博 Masahiro Yamauchi	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda	吉江 賢太郎 Kentaro Yoshie	大田 淳志 Atsushi Ota
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	チューバ Tubas	古谷 寛 Hiroshi Furuya
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		黒尾 文恵 Fumie Kuroo	トランペット Trumpets	萩野 晋 Shin Ogino	
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi			
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda		川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	重井 吉彦 Yoshihiko Shigei	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobara	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	名雪 裕伸 Hironobu Nayuki	桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 愼	細川 克己
池田 敏美	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
糸井 正博	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
今井 彰	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
井料 和彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	山屋 房子
植木 佳奈	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	吉田 啓義
上野 眞行	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	波名城 昌子	米倉 浩喜
生方 正好	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	脇屋 俊介
大兼久 輝実	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	
大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳	

〈発行日〉2021(令和3)年6月17日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

新しい景色をみたい

In Search of a New Scene